全国税

発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内（〒100-0013）
全国税労働組合
発行人　木村　和由
電　話（03）3581－3678
ＦＡＸ（03）3507－0886
振替口座　00140-2-68514

沖縄・辺野古の朝の風景、この自然が壊されています

沖縄には、31の米軍専用施設があり、その総面積は1万8、609ヘクタール、県の総面積の8％、人口の9割以上が居住する沖縄本島では約15％の面積を占めています。東京23区のうち13区を覆ってしまうほどの広大な面積です。

沖縄が本土に復帰した当時、全国の米軍専用施設面積に占める沖縄県の割合は58・7％でしたが、本土では米軍基地の整理・縮小が沖縄県よりも進んだ結果、現在では、国土面積の0・6％しかない沖縄県に、全国の米軍専用施設面積の70・6％が集中しています。

（沖縄県作成Q＆A）

“税務の職場”何でも110番

zenkokuzei@aol.com

全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも一一〇番」を常時設置しています（電話とＦＡＸは上記の番号までどうぞ）。

◇全国税ホームページ◇
http://www.kokko-net.org/zenkokuzei

明けましておめでとうございます

稗田慶三中央執行委員長

国税の職場では例年、年明け早々から納税者が押し寄せ、大混乱の3月末まで続きます。マイナンバーの確認や提出票の作成がこれに拍車をかけています。

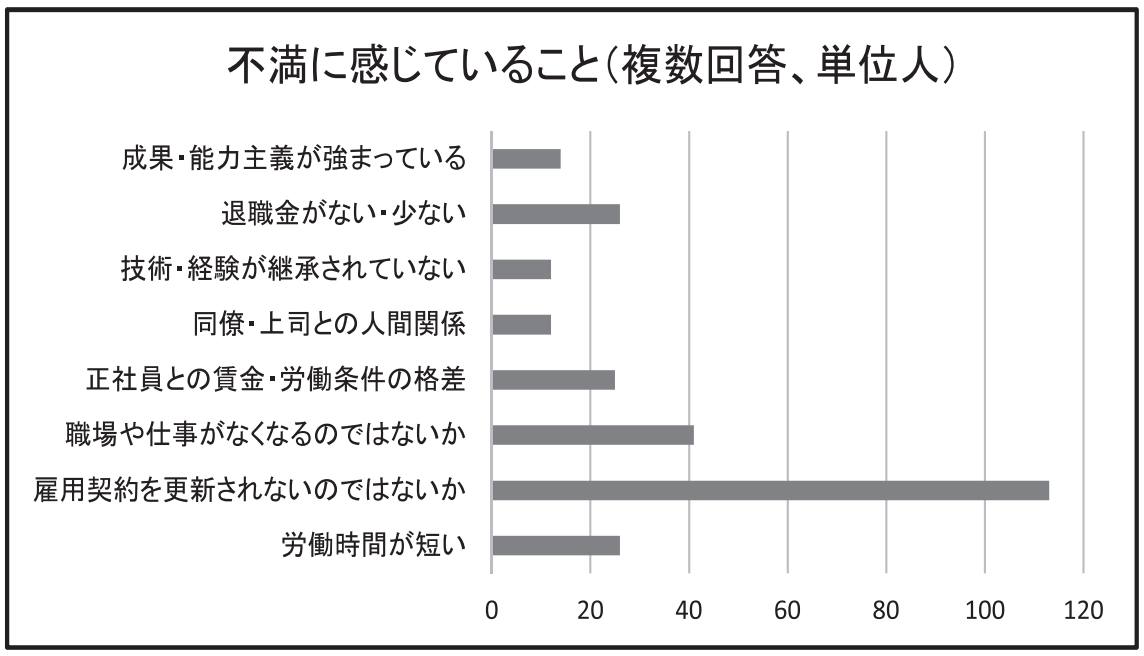
庁当局は近年、確定申告事務、とりわけ相談事務の後ろ倒しを図ろうとしていますが実態はそうなっていません。問題なのは庁・局当局が自ら進める施策でトラブルの責任を現場職員に押し付けていることです。

定員が減少する中で納税者サービスと確定申告体制がどうあるべきかは議論を深めるべき課題ですが、しかし、「職員犠牲で乗り切る」では現場はたまったものではありません。

全国税は「職員の生活と健康が守られてこそ」公正・公平な行政執行ができると考えています。

職場のみなさんには、相変わらぬ全国税へのご支援をお願いして、年頭にあたってのご挨拶といたします。

非常勤職員の雇い止めするな！



全国税は、1月25日長官に対し、非常勤職員の雇い止めを行わないこと、併せて、税務職俸給表適用、期末勤勉手当支給を求める要求書を提出します。

アンケートへの声

★窓口応対で負担も大きく、確申期の短期雇用と賃金が同じであることに不満を感じる。

★窓口業務時、職員のフォロー体制が不十分。

★窓口受付の業務は来庁者から怒られたり、休憩時間もなく、とてもストレスを感じる。休憩時間を明確にしてほしい。

★1年ごとの更新になっているが、仕事ができるようになるには2～3年が必要。仕事内容が複雑で覚えるのが大変。窓口では来署者に叱られる事も多く、知識のない非常勤に対応させるのはどうかと思う。

★扱いが悪くなれば優秀な非常勤はやめてしまう。実際ハローワークに行っている人がいる。

★職員の方で非常勤に返事もしないような方がいる。お客様の用件を伝えても無言。せめてお客様に「今行きます」とか「待ってください」とか、声をかけてもらえればいいのですが。

そろばん弾

職場での重大な事件（自殺）の背景には、29件の暴力、そして300件の暴言等があると考えられる。（ハインリッヒの法則）事件に至った原因はうやむやのままだ▼トップの資質が問われるのは政界も財界も相撲界も国税庁も同じである▼職務の公平な執行で国民の疑惑や不審を招く行為を防止し、国民の信頼の確保のために税務職員はより高い倫理意識を要求され、トップの長官は更に高い倫理意識が必要であるが現実はモリの国会審議や記者会見しない異例の対応で倫理意識は感じられない▼その国税庁はe－Taxが増えIT化が進んだとの広報だが、自書申告が税務署内代打電子申告に代わっただけで、白宅からの電子申告は微増。職員はへとへとだ。

行（二）職員へのハラスメントをなくせ

全国税は11月9日、行（二）職員の要求前進のため国税庁と交渉を行いました。

全国税　行（二）職員に対するあらゆるハラスメントをやめること。

当局　職員一人一人の能力が十分発揮されるためにはパワハラを含むハラスメントのない明るく風通しの良い職場環境を確立することが重要である。そのため、ハラスメント防止研修、新任の管理者には外部講師による研修、相談員等による相談窓口での対応を行っている。

あった場合は厳格に対応することとしている。受けたり、目撃した時は相談員による窓口に相談してほしい。

全国税　名古屋西署では、総務課職員により官用車に傷がつけられたにもかかわず修理をせずに放置し、全国税の後押しで後日修理されたが、運転手が署長にパワハラを受けた。全国税に加入し止んだが、行（二）職員は一番弱い立場にいる。

当局　個別のことは答えられない。ハラスメントをなくすよう組織として対応している。

全国税　大阪局の尼崎署では、運転手が全国税に加入したとたん、署長の週間予定表を配付しなくなり、交換手にだけ配付していた。そのことを申し入れたら交換手にも配付しなくなった。総務課長は署長の計画を見て休暇を取れというが計画がわからなければそれもできない。

全国税　定員削減を行わないこと。また、行（二）職員不補充政策の撤廃を求めること。

当局　定員の合理化は政府全体の方針である。

全国税　行（二）職俸給表を撤廃し、行（一）職俸給表への統合を図り、現行の給与水準を大幅に引き上げるよう働きかけること。少なくとも、現在の行（二）職俸給表の水準を抜本的に引上げ、昇給間差額を大幅に改善するよう働きかけること。

当局　法令の改正を要する問題である。

全国税　再任用について、制度の趣旨に則り、希望者全員を再任用すること。再任用者の定員管理については、弾力的な扱いが可能となるようにすること。また、短時間勤務については、定員管理枠外とし、別途弾力的な定数管理が可能な仕組みに変えること。

当局　制度の趣旨を踏まえ、平成25年3月の「雇用と年金の接続について」の閣議決定に基づき欠格事由に該当しない限り採用している。

全国税　超勤予算を十分確保し、サービス残業を根絶させること。また、正確に時間を管理し、支給時間の拡大を図ること。

当局　予算は確保している。管理者に勤務時間管理を的確に行うよう指示している。

全国税　もともと低賃金で超勤手当がないと生活できない。

生命と健康を守る全国統一行動日

全国税は「一人の死亡者も病人も出さない事務運営を求める要求書」を2月15日佐川長官に提出します。（以下抜粋）

★　申告相談を17時に終了させるために、受付を遅くとも16時に終了させること。

★　立ちっ放しとなる申告相談等は止めること。やむを得ずこれらの体制とする場合は、半日交替を厳守すること。

★　全ての会場で、昼休みや休憩時間・場所を確実に確保すること。

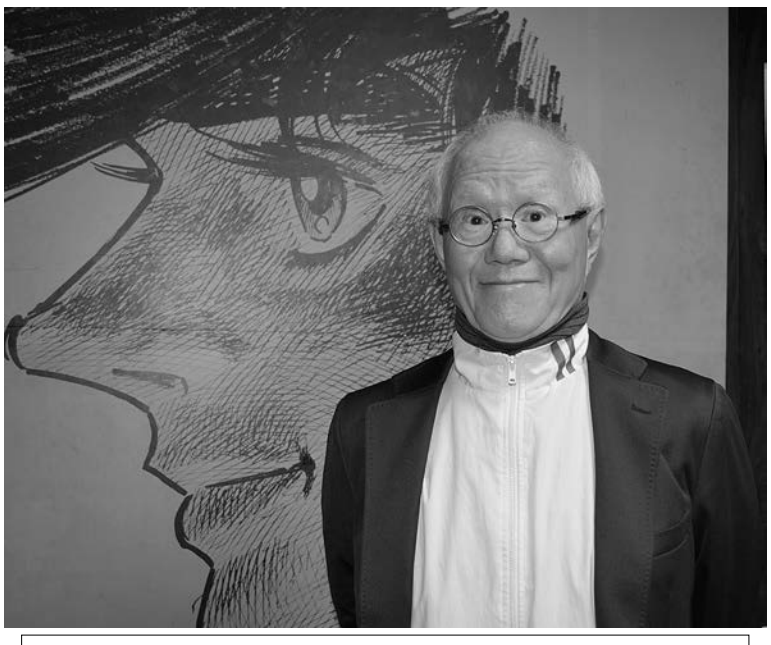
★　連日や2時間を超える超過勤務をさせないこと。

★　全省庁一斉定時退庁日、リフレッシュ・フライデー等を厳守し、励行すること。

新春インタビュー

自由な表現こそが平和の砦

漫画家　ちばてつやさん



プロフィール
1939年東京生まれ。７歳まで旧満州（中国東北部）で過ごす。56年漫画家デビュー。「ハリスの旋風」「１・２・３と４・５・ロク」「あしたのジョー」「おれは鉄兵」「のたり松太郎」など著書多数。2002年に紫綬褒賞。05年より文星芸術大学教授。「月刊ビッグコミック」（小学館）で連載中の「ちばてつやの ひねもすのたり日記」の単行本第１巻が18年１月に発売予定

僕は戦時中、父親の仕事の関係で満州（中国東北部）にいました。敗戦の時は6歳。そこから1年がかりで日本に引き揚げてきたんです。途中、悲惨な場面をたくさん見ました。

そんな私からすると、今の平和はありがたい。飢えで子どもが死ぬことはなく、交番のおまわりさんはいばらない。そして漫画家には好きな作品を描く自由があります。

戦時中はマスコミに検閲が入りました。庶民にどんな情報を流すかを軍部が決めていた。国が言論・表現の自由を規制する動きを見せるたび、僕はそのことを思い出します。昨年成立した共謀罪にも危機感を持っています。

子どもたちを信じよう

2004年に91歳で亡くなったおふくろは、僕の漫画にちょくちょく口を出しました。「あしたのジョー」の流血場面や「のたり松太郎」で主人公が女性に迫る場面を見ては、「こんなものを描いて恥ずかしくないの？」と僕を叱った。あれは厳しい〝検閲〟でした――というのは冗談で、家族にあれこれ言われる分には別に構いません。

僕だって子どもたちが幼かった頃、エッチな漫画を読むのを慌てて止めたことがあります。

「不健全」な本は確かにあります。でも子どもには好奇心がある。そこを刺激する漫画を最初から遠ざけるのはやはり良くない。そうした本に興味を示す子がいたら、周囲が「大人になってから読もう」と声を掛ければいいんです。子どもはそれくらい理解できますよ。

第一、健全と不健全の境を誰が決めるんですか？権力が決めるのだとすれば、それは戦時中に後戻りではないでしょうか。

美しい作品だけでいいのか

大学で漫画を教えているのですが、表現規制の動きがあるたび、学生たちも萎縮します。だから僕は、「描いちゃいけないものなんてないよ」と伝えています。

読み手のことは考えること。一人よがりになるのは駄目です。でも、それにさえ気を付けていれば何を描くのかは自由。きれいな作品だけじゃなく、危なかったり、残酷な作品があってもいい。富士山を見ると「美しい」と思うけど、すそ野には蛇や動物の骨も転がっている青木ケ原が広がっているんです。それも含めて富士山です。

恩人、徐集川さん

戦争が嫌なのは、終戦後も人々の暮らしに影響するせいもあります。

中国では、60～70年代の文化大革命の時、親日家が糾弾されました。その中には僕の恩人もいます。満州にあった日系の印刷会社で父と一緒に働いていた徐集川さんです。工場内で日本語通訳をしていました。彼は終戦直後、治安が悪化していた旧満州で危険を省みず、僕たち日本人を自宅にかくまってくれたのです。

戦後、そのお礼を言いたくて、僕は数回訪中しています。残念ながら父の生前には消息が分かりませんでしたが、1999年NHKの「わが心の旅」という番組収録で中国に行った時、ついに彼のお孫さんに会うことができました。そこで文革の時のことを聞いた。首に針金で「日本通訳」と重い板をつるされて、紅衛兵に追及されたそうです。胸が痛みました。

ご本人はすでに亡くなっていましたが、お孫さんは僕の父が贈った日本製の毛布をまだ保管していて…。「千葉さんとは兄弟みたいに付き合ったんだ」と言っていたそうです。ボロボロの毛布を見て、涙が止まりませんでした。

日本が戦時中、中国を武力侵略したのは、その時代の世界情勢もあり、やむを得なかったとはいえ、ひどいことでした。わだかまりがなくなるには長い時間がかかる。でも希望を持ちたいですね。日本人も中国人も同じ人間同士。それを引き裂く戦争は二度と起こしてはいけません。